



琉球大学資料館（風樹館）

# 風樹館だより



2012（平成 24）年 5 月 1 日発行 第 5 号

## 開かれた大学博物館を目指して

琉球大学では「地域へ開かれた大学」との理念のもと、大学が生産する様々な学術情報を学内外に広く提供しています。琉球大学では、教育や研究活動の支援を目的に、1967 年に全国の大学に先駆け大学附属の資料館を設置しました。当館には、学内の研究者が教育や研究活動の一環として、主に琉球列島で収集した 10 万点あまりの標本や資料が収蔵されています。常設展示室では、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナなどの希少生物の剥製標本をはじめ、首里城関連の考古資料、沖縄の伝統工芸資料、古農具や藁算などの民俗資料が展示されています。また、自然観察の場として利用できる「学校ビオトープ見本園」が併設されており、昆虫やメダカなどが観察できるほか、チョウ類の食草や資源植物なども植栽展示しています。

## ◇ 風樹館ホームページリニューアル！！

1999 年に全国の大学博物館に先駆け開設したホームページを13年ぶりにリニューアルしました！これまでも公開していた収蔵資料データベースをさらに充実させ、教育支援プログラムの紹介や標本資料提供など研究・教育の支援事業を図ります。また、新たな試みとしてバーチャル企画展を立ち上げました。これから風樹館の活動や試みを発信していきます！

※ URL が <http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp/ja/> から <http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp> に変更されましたので、ブックマークの変更をお願い致します。



トップページ



データベース検索閲覧ページ



利用案内・展示案内※動画



研究教育支援



バーチャル企画展※動画

## 目次

01： 開かれた大学博物館  
を目指して

風樹館ホームページ  
リニューアル！

02： 2011(平成 23) 年度  
運営実績

収蔵資料目録第 7 号  
発行！

03： 2011(平成 23) 年度  
新収蔵資料

2012(平成 24) 年度  
収蔵資料の整理状況

風樹館コレクション No.5  
ヤンバルテナゴコガネ

04： 2011(平成 23) 年度  
入館者数

2012(平成 24) 年度  
行事予定

2012(平成 24) 年度  
運営体制

利用案内





## 2010（平成 22）年度 運営実績

### (1) 標本類の貸出・研究利用等

奈良女子大学共生科学研究センター（貝類）、日本大学生物資源科学部博物館（哺乳類・鳥類剥製標本、哺乳類・爬虫類・両生類液浸標本、鳥類・両生類骨格標本、昆虫類展翅標本、ハブ乾燥標本、頭部骨格標本、ウラジログシ堅果標本 他）、東北大学大学院科学研究科（ヘビ類）、群馬県立自然史博物館（哺乳類骨格標本）、伊丹市昆虫館（クモ類標本）、石垣市立八重山博物館（ハブ類、甲殻類）、宜野湾市立博物館（琉球玩具）、沖縄県立博物館・美術館（首里城出土 瓦片、馬全身骨格標本 他）など。

### (2) 教員免許更新講座の開設

平成 21 年度から継続して、「大学博物館で学ぶ沖縄の自然と文化」テーマにした教員免許更新講座を当館で開講している。本講習会を契機に、県内の学校機関による当館の利用が増加している。

### (3) 資料館の受託研究・研究助成等

- ① 沖縄 TLO（受託研究）；新たな光源として期待される LED を利用した害虫等捕獲システム（予察灯）に関する研究調査  
予察灯に飛来する昆虫類の基礎的データを得るためにライトトラップによる飛来昆虫調査を実施した。
- ② （財）海洋博覧会記念公園管理財団（研究助成）；ハウオウボククチバに関する調査  
沖縄県内のハウオウボクを食害し甚大な被害を招いているハウオウボククチバについての現状を調査し、フェロモン抽出試験による生態調査を行った。

## 2010（平成 22）年度 新収蔵資料

2010（平成 22）年度は、鳥類（サンコウチョウ、カラスバト、トラツグミ、オオクイナ、アカヒゲ）、ほ乳類（アブラコウモリ、オキナワコキクガシラコウモリ、リュウキュウユビナガコウモリ、ジャワマンダース）、爬虫類（ヤエヤマセマルハコガメ、リュウキュウヤマガメ）の剥製及び、ヒメハブ（生体）を収蔵した。



- ① アブラコウモリ  
（イエコウモリ）
- ② オオクイナ
- ③ トラツグミ
- ④ カラスバト
- ⑤ アカヒゲ



### ヒメハブ（クサリヘビ科）

奄美諸島、沖縄諸島（喜界島、沖永良部島、与論島、粟国島を除く）に分布し、おもに森林周辺に生息する。水辺などの湿ったところを好む。体長は最大で 80cm 程になる。カエルを中心にさまざまな脊椎動物を捕食する。ハブやサキシマハブに比べ、毒性はやや弱い。





2010（平成 22）年度 収蔵資料の整理状況

現在、当資料館には沖縄独自の自然と文化を背景にした学術的価値の高い標本を中心に、約 7 万点あまりが収蔵されています。

| 標本種別     | 収蔵点数   | 整理済点数  |
|----------|--------|--------|
| 自然系標本総数  | 40,241 | 32,312 |
| 哺乳類      | 140    | 116    |
| 鳥類       | 90     | 80     |
| 両生爬虫類    | 900    | 880    |
| 魚類       | 6      | 6      |
| 棘皮動物     | 200    | 3      |
| 昆虫類      | 12,000 | 11705  |
| クモ形類     | 700    | 557    |
| 甲殻類      | 1,400  | 1042   |
| 環形動物     | 4      | 4      |
| 貝類       | 10,000 | 8962   |
| 扁形動物     | 1      | 1      |
| 刺胞動物     | 4,000  | 3848   |
| 植物・菌類    | 8,000  | 2319   |
| 岩石・土壌・化石 | 2,800  | 2,789  |
| 文化系資料総数  | 4,347  | 3,347  |
| 考古資料     | 2,112  | 2,112  |
| 民俗資料     | 255    | 255    |
| 地理資料     | 49     | 49     |
| 美術工芸資料   | 931    | 931    |
| 文献資料     | 1,000  | 0      |
| 総標本数     | 44,588 | 35,659 |



| 標本種別  | Holotype | Allotype | Paratype | Paratopotype |
|-------|----------|----------|----------|--------------|
| 哺乳類   | 0        | 0        | 1        | 0            |
| 爬虫類   | 3        | 0        | 6        | 0            |
| 甲殻類   | 21       | 1        | 67       | 0            |
| 昆虫類   | 10       | 2        | 130      | 24           |
| クモ形動物 | 0        | 0        | 22       | 0            |
| 環形動物  | 0        | 0        | 4        | 0            |
| 棘皮動物  | 0        | 0        | 3        | 0            |
| 合計    | 34       | 3        | 232      | 24           |



◇ 風樹館コレクション No.4 【キクザトサワヘビ】

※当館には、生物に学名を与える(種の記載)際に用いられたタイプ標本や学術上重要な資料が多数収蔵されています。

本種は、沖縄県久米島の山地溪流にのみ生息する固有種で、日本で唯一、流水中で活動する水棲のヘビである。当初、本タイプ標本 1 点のみに基づきアオヘビ属（現：Cyclophiops）の一種として記載され、発見者の喜久里教達氏の名に因んでキクザトアオヘビ（*Liopeltis kikuzatoi* Okada and Takara, 1958）と命名された。その後、本種の分類学的な再検討が行われ、1983年に筆者（当山昌直）によって現在の学名と和名に変更された。サワヘビ属（*Opisthotropis*）の近縁種は、中国やフィリピン、ボルネオなどに分布しており、いずれも山間部の溪流に生息している。



本種については長い間、報告が原記載一件だけであったため、学界では数十年にわたり詳細がわからないままになっていた。1981 年沖縄県立博物館で開催された「沖縄群島両生爬虫類展」に発見者の喜久里教達氏が来られた際に、氏の話から本種が久米島の河川で採集されたことがわかった。この情報提供を元に 1982 年 9 月当山らが久米島調査を実施し、河床を這っている本種を採集している。その後に行われた、分類学的再検討にもとづき 1983 年に属名が変更され、和名も新しいものが 1984 年（沖縄県立博物館紀要）に提唱された。



# 2010（平成 22）年度 入館者数

2010（平成 22）年度入館者総数は、2,037 人でした。  
内訳は、学内学生 395 人、県内学生 1,130 人、県内一般 196 人、県外学生 181 人、県外一般 114 人、国外 21 人です。  
県内学生については小学校等の社会科見学や総合学習、理科の授業等の団体利用が多く、また県外学生については、他府県からの修学旅行生が年々増加しています。

※ ただし、入館無料のため来観名簿への記入者が少なく、実際の入館者数はさらに多いと思われます。

# 2011（平成 23）年度行事予定

## ◇ 企画展等の開催

- ・ 企画展「昆虫標本をつくってみよう！」（平成 23 年 7 月 25 日～8 月 26 日）  
昆虫標本の学術的な重要性を知るとともに、地域の生物や自然環境への関心を高めることを目的に展示と標本作製の講習会を実施する。
- ・ 特別展「沖縄の草花玩具で遊ぼう！」（平成 23 年 12 月 26 日～平成 24 年 1 月 6 日）  
沖縄の伝統的な草花玩具の普及と作成方法の継承を目的に、草花玩具類の展示と作成方法のワークショップを実施する。

# 2011（平成 23）年度運営体制

各学部の代表者（教授）1 名からなる、琉球大学資料館（風樹館）運営委員会を設置し、以下の体制のもとに運営を行う。

- 館長（農学部教授兼任）：諸見里 善一
- 学芸員（常勤）：佐々木 健志
- 事務補佐員（非常勤）：秋庭 美由紀
- 学生ボランティア（随時）
- 運営委員：池田 榮史 \* 学芸員（法文学部・准教授）

松本 晶子（観光産業科学部・教授）  
田吹 亮一（教育学部・教授）  
新城 竜一（理学部・教授）  
當間 孝子（医学部・教授）  
野口 隆（工学部・教授）  
田場 聡（農学部・准教授）

# 風樹館パンフレット発行！

風樹館のパンフレットを新たに作りしました。館内にて配布しています。



## ◇ 利用案内

開館時間：午前 10 時～午後 5 時  
休館日：土・日・祝日・12 月 28 日～1 月 4 日  
\* その他、臨時に休館する場合があります。  
入館料：無料  
住所：沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地  
Tel./Fax：098-895-8841  
E-mail：fujukan@agr.u-ryukyu.ac.jp  
URL：http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp

公共交通機関：  
那覇バスターミナルから 97 番か 98 番で「琉球大学北口」下車（所要時間約 1 時間）那覇空港からは高速バスで「琉球大学北口」下車（所要時間 34 分）。資料館（風樹館）まで徒歩 6～10 分。

